

令和 7 年度 事業報告書

はじめに

近年、少子高齢化や家族形態の変化、社会的孤立、物価高騰による生活基盤の圧迫など、地域を取り巻く課題はますます複雑かつ複合的になっています。また、「苦しい」と声を上げにくい方や、制度の狭間で困っている方の存在が見えづらくなっており、専門職だけでは対応が難しいケースも増えています。そのため、地域住民による支え合いや見守り活動など、住民主体の地域づくりの重要性が一層高まっています。

本会では、「子どもからお年寄りまで、皆で支え合い、共に生きるむらづくり」の実現を目指し、各事業の実施や関係機関との連携強化に取り組んでまいりました。

そのような中、地域支え合い活動委員会への参画をはじめ、子どもの居場所運営を実施するとともに、長期休暇期間中には地域の協力のもと、よみたん子どもの居場所キャラバン隊を開催し、世代間交流の推進に努めました。また、地域・福祉団体・企業・施設等との連携により、学校や地域における福祉教育(共育)にも取り組みました。さらに、生き生き健康センターを拠点として、福祉サービス事業や介護予防事業の充実・強化を図るとともに、関係機関との協働を通して、地域福祉の推進に向けた各種事業を展開しました。

加えて、住民、地域で福祉活動を行う者、福祉サービスを提供する事業者等が相互に協力し、地域福祉を推進するための実践的な行動計画である第4次読谷村地域福祉活動計画を、今回初めて行政計画である村地域福祉計画と一体的に策定しました。

また、組織運営や事業展開、財務運営等に関する具体的な方向性を示す中期経営計画の策定に向けた取組も進めてまいりました。

今後も、地域住民や関係機関、団体等との連携を深めながら、誰もが安心して暮らし続けることのできる地域づくりの推進に努めてまいります。

必要な事業の報告

1. 法人運営活動

円滑な会務の運営及び事業の執行を図るため、次のとおり理事会、評議員会及び監査を実施した。

(1) 業務・会計監査の実施

日 付	令和 7 年 5 月 27 日
内 容	令和 6 年度決算監査

(2) 令和 6 年度 読谷村補助金交付団体監査

内 容	令和 6 年度補助金交付団体監査 ①社会福祉協議会運営事業補助金 ②総合福祉センター運営事業補助金 ※主管課である福祉課へ書類の提出
-----	--

(3) 理事会・評議員会・選任解任委員会の開催

■ 理事会（開催数 6 回）

第 1 回	日付	令和 7 年 5 月 29 日	【出席 理事 9 名、監事 2 名】
	議案	第 1 号 読谷村社会福祉協議会役員・評議員選任規程の一部を改正する規程 第 2 号 読谷村社会福祉協議会給与並びに費用弁償に関する規程の一部を改正する規程 第 3 号 読谷村社会福祉協議会役員等の報酬等に関する規程	
第 2 回	日付	令和 7 年 6 月 10 日	【出席 理事 8 名、監事 2 名】
	議案	第 4 号 令和 6 年度事業報告 第 5 号 令和 6 年度資金収支決算 第 6 号 読谷村社会福祉協議会役員報酬の総額 第 7 号 読谷村社会福祉協議会 役員候補者の選任 第 8 号 読谷村社会福祉協議会 評議員候補者の選任 第 9 号 令和 7 年度定時評議員会の開催	
第 3 回	日付	令和 7 年 6 月 25 日	【出席 理事 8 名、監事 1 名】
	議案	第 10 号 読谷村社会福祉協議会 評議員候補者の選任 第 11 号 読谷村社会福祉協議会 会長、副会長の選定	
第 4 回	日付	令和 7 年 9 月 11 日	【出席 理事 8 名、監事 2 名】
	議案	第 12 号 令和 7 年度資金収支第一次補正予算 第 13 号 読谷村社会福祉協議会よみたん社協ホームヘルプサービス事業所運営規程の一部を改正する規程 第 14 号 読谷村社会福祉協議会障害福祉サービス事業所運営規程の一部を改正する規程 第 15 号 読谷村社会福祉協議会「訪問介護事業所」パートタイム職員就業規則の一部を改正する規則 第 16 号 読谷村社会福祉協議会指定通所介護事業所よみたん生き生き健康デイサービスセンター運営規程の一部を改正する規程 第 17 号 読谷村社会福祉協議会経理規程の一部を改正する規程 第 18 号 読谷村社会福祉協議会育児・介護休業等に関する規程の一部を改正する規程 第 19 号 読谷村社会福祉協議会が提供する福祉サービスに係る苦情解決に関する第三者委員の補充選任 第 20 号 令和 7 年度第 2 回評議員会の開催	
第 5 回	日付	令和 7 年 11 月 27 日	【出席 理事 6 名、監事 1 名】
	議案	第 21 号 令和 7 年度資金収支第二次補正予算 第 22 号 読谷村社会福祉協議会よみたん社協ホームヘルプサービス事業所運営規程の一部を改正する規程 第 23 号 読谷村社会福祉協議会障害福祉サービス事業所運営規程の一部を改正する規程 第 24 号 読谷村社会福祉協議会「訪問介護事業所」パートタイム職員就業規則の一部を改正する規則 第 25 号 令和 7 年度第 3 回評議員会の開催	

第 6 回	日付	令和 8 年 2 月 24 日	【出席 理事 7 名、監事 2 名】
	議案	第 26 号 基金積立金の一部取り崩し 第 27 号 役員等賠償責任保険契約の内容 第 28 号 令和 8 年度事業計画 第 29 号 令和 8 年度資金収支予算 第 30 号 読谷村社会福祉協議会 理事補充候補者の選任 第 31 号 読谷村社会福祉協議会が提供する福祉サービスに係る苦情解決第三者委員の選任 第 32 号 令和 7 年度第 4 回評議員会の開催	

■ 評議員会（開催数 4 回）

第 1 回	日付	令和 7 年 6 月 25 日	【出席 評議員 25 名、理事 2 名、監事 1 名】
	議案	第 1 号 令和 6 年度事業報告 第 2 号 令和 6 年度資金収支決算 第 3 号 読谷村社会福祉協議会 役員報酬の総額 第 4 号 読谷村社会福祉協議会 理事・監事の選任	
第 2 回	日付	令和 7 年 9 月 19 日	【出席 評議員 23 名、理事 2 名】
	議案	第 5 号 令和 7 年度資金収支第一次補正予算	
第 3 回	日付	令和 7 年 12 月 11 日	【出席 評議員 24 名、理事 2 名、監事 1 名】
	議案	第 6 号 令和 7 年度資金収支第二次補正予算	
第 4 回	日付	令和 8 年 3 月 13 日	【出席 評議員 26 名、理事 2 名、監事 2 名】
	議案	第 7 号 基金積立金の一部取り崩し 第 8 号 令和 8 年度事業計画 第 9 号 令和 8 年度資金収支予算 第 10 号 読谷村社会福祉協議会 役員の補充選任	

■ 評議員選任解任委員会（開催数 2 回）

第 1 回	日付	令和 7 年 6 月 12 日	【出席 4 名】
	議案	第 1 号 読谷村社会福祉協議会評議員の選任	
第 2 回	日付	令和 7 年 7 月 3 日	【出席 5 名】
	議案	第 2 号 読谷村社会福祉協議会評議員の選任	

（4）調査・広報啓発活動の推進

住民が地域で安心して暮らし続けるために必要な新しい福祉情報、社協情報を広報誌やホームページ等を積極的に活用し、社会福祉に対する理解と関心を深める事を目的に推進した。

- ①よみたん社協だより発行（年／6 回：4 月、6 月、8 月、10 月、12 月、3 月）
- ②ホームページの活用（随時更新）
- ③公式 LINE の活用（随時更新）

(5) 福祉関係団体活動の支援助成

■福祉関係団体等活動の支援助成（10 団体 1,741,000 円）※令和 6 年度（10 団体 1,741,000 円）

- | | |
|--------------|--------------------|
| ①読谷村身体障害者協会 | ②読谷村手をつなぐ育成会 |
| ③読谷村母子寡婦福祉会 | ④読谷村民生委員児童委員協議会連合会 |
| ⑤読谷村精神療養者家族会 | ⑥読谷村ボランティア団体連絡協議会 |
| ⑦読谷村赤十字奉仕団 | ⑧読谷村更生保護女性会 |
| ⑨手話サークル花織 | ⑩リーディングサービスともしび |

(6) 自主財源の確保

自治会及び行政事務連絡員のご協力や多くの村民のご理解を受け、財源の確保を行った。

年 度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
社協会費	2,266,000 円	2,191,100 円	2,371,397 円
内 訳	戸 別 会 費 2,079,000 円	戸 別 会 費 1,963,600 円	戸 別 会 費 2,097,497 円 (表 1)
	賛 助 会 費 91,000 円	賛 助 会 費 130,500 円	賛 助 会 費 146,900 円 (表 2)
	施設団体会費 96,000 円	施設団体会費 97,000 円	施設団体会費 97,000 円 (表 3)
	特 別 会 費 0 円	特 別 会 費 0 円	特 別 会 費 30,000 円 (表 4)

(表 1) 戸別会費

自治会	戸 数	金 額	自治会	戸 数	金 額	自治会	戸 数	金 額
喜 名	222	111,000 円	儀 間	126	63,000 円	大 木	202	101,000 円
親 志	53	26,500 円	宇 座	226	113,000 円	比 謝 疋	14	7,000 円
座 喜 味	334	167,000 円	瀬 名 波	152	76,000 円	牧 原	38	19,000 円
伊 良 皆	171	85,500 円	長 浜	204	102,000 円	長 田	26	13,000 円
上 地	20	10,000 円	楚 辺	607	303,997 円	大 添	85	42,500 円
波 平	358	179,000 円	渡 具 知	192	96,000 円	横 田	90	45,000 円
都 屋	102	51,000 円	比 謝	90	45,000 円	県営波平地 団	40	20,000 円
高 志 保	333	166,500 円	大 湾	133	66,500 円	県営比謝地 団	40	20,000 円
渡 慶 次	174	87,000 円	古 堅	158	79,000 円	そ の 他	4	2,000 円

※金額 1 世帯 500 円

(表 2) 賛助会員 (88 名)

村民	民生委員	社協理事	社協評議員	社協監事	社協職員
----	------	------	-------	------	------

※金額 1 口 1,000 円

(表3) 施設団体会員 (29 件)

祥永会（読谷の里）	よみたん救護園	海邦福祉会	ケアセンターきらめき
まゆの里おおわん	残波かりゆし会	喜名保育園	わかたけ保育園
わかたけ北保育園	のぐさ保育園	南古堅保育園	きりん保育園
わらび保育園	咲く原保育園	たけのこ保育園	ぽのぽの保育園
すぽんじまむ	読谷村身体障害者協会	読谷村母子寡婦福祉会	読谷村手をつなぐ育成会
読谷村赤十字奉仕団	読谷村更生保護女性会	読谷村ボランティア 団体連絡協議会	ゆいの会
読谷中学校区 民生委員児童委員協議会	古堅中学校区 民生委員児童委員協議会	おきなわ子ども 未来ネットワーク	星組☆第2学童クラブ
コーラル学童クラブ			

※金額 ①入所施設 5,000 円 ②通所施設、保育園・幼稚園、福祉団体、その他 3,000 円

(表4) 特別会員 (3 件)

(株)加島事務機	読谷こばと幼稚園	(株)LEAD
----------	----------	---------

※金額 1口10,000 円

(7) 寄 附 金

多くの村民のご芳志を受け、下記のとおり寄附金が寄せられた。

寄附金総額 59 件 5,687,641 円

		令和5年度	令和6年度	令和7年度
カジマヤー	件数	3	4	2
	金額	200,000	300,000	80,000
米寿・トーカチ	件数	1	0	1
	金額	100,000	0	50,000
古希祝い (70 歳)	件数	1	0	0
	金額	30,000	0	0
香典返し	件数	17	17	14
	金額	1,190,000	1,140,000	650,000
一般寄付	件数	52	39	41
	金額	6,213,264	3,443,436	4,607,641
指定寄附	件数	1	2	1
	金額	300,000 ※フードバンク事業へ	310,000 ※フードバンク事業へ	300,000 ※フードバンク事業へ
合 計	件数	75	62	59
	金額	8,033,264	5,193,436	5,687,641

(8) 役職員研修会

社協役職員を対象に資質向上、働きやすい職場環境づくりを目的に研修を実施した。関係機関とともに防災について読谷村及び社協（災害ボランティア・災害ボランティアセンター）の動きを共有し平時や災害時の連携等について話し合うことを目的に研修会を実施した。

第1回	日付	令和8年2月26日（木）	【参加者 10 名】
	内容	■読谷村社会福祉協議会 管理職研修 『職場のハラスメント防止』 ・事業主に義務づけられている措置 ・ハラスメントの種類 ・ハラスメントが与えるリスク 講 師 社会保険労務士法人クローバー 比嘉 正人氏 参加者 福祉サービス3事業所統括責任者・管理者・事務局長・係長	
第2回	日付	令和8年3月4日（水）	【参加者 40 名】
	内容	■災害時支援体制づくり情報交換会 『地域協働型による災害ボランティアセンター運営に向けて』 講 師 ・沖縄県社会福祉協議会 與儀 隆一氏 ・読谷村役場 総務課 喜瀬 学 氏 ・読谷村役場 福祉課 大城 執 氏 グループワーク 情報交換会 参加者 自治会・民生委員児童委員・村内事業所（高齢・障がい・児童） 消防団・読谷村役場職員・社協職員	

(9) 社会福祉協議会中期経営計画策定

社会福祉協議会の組織運営や事業展開、財務運営等に関する具体的な方向性を示すことを目的に地域福祉を推進するための人材・物的資源・財源といった経営資源の適切な管理と活用を含めた経営基盤の整備に取り組んだ。

■策定期間 令和7年4月～令和9年3月（2年間）

■策定委員 10 名

■策定委員会 3 回開催

第1回	日付	令和7年10月17日（金）	【出席 10 名】
	内容	■策定委員委嘱状交付 ■委員長及び副委員長の選出 ■中期経営計画策定についての諮問 ■中期経営計画策定概要の説明	
第2回	日付	令和7年12月16日（火）	【出席 8 名】
	内容	■策定プロセスとスケジュールの確認 ■第1回策定委員会のふりかえり ■経営の現状把握と課題抽出	
第3回	日付	令和8年2月25日（水）	【出席 8 名】
	内容	■第2回策定委員会のふりかえり ■計画策定スケジュールの確認 ■協議 ①経営課題と重点取組について ②使命・経営理念の方向性について	

(10) 第 4 次読谷村地域福祉活動計画の策定

社会福祉協議会が策定する住民、地域で福祉活動を行う者、事業を営む者等が相互に協力し地域福祉の推進を目的とする実践的な活動・行動計画を、今回初めて行政計画である村地域福祉計画と一体的に策定した。

■計画期間 令和 8 年度～令和 12 年度（5 年間計画） ■策定委員 12 名

■策定委員会 3 回開催

第 1 回	日付	令和 7 年 9 月 18 日
	内容	■策定の概要 ■読谷村の地域福祉に関する現況 ■住民意識調査（案）について
第 2 回	日付	令和 8 年 1 月 20 日
	内容	■アンケートの報告 ■住民座談会の報告 ■施策体系及び施策について
第 3 回	日付	令和 8 年 3 月 13 日
	内容	■パブリックコメントの実施状況報告 ■計画（案）の全体確認
その他	内容	・地域福祉に関するアンケート（10 月 1 日～10 月 20 日） ・関係団体アンケート（9 月後半～10 月） ・住民座談会（10 月 16 日）参加者 32 名 ・ワーキング会議 2 回実施（①12 月 23 日 ②2 月 19 日） ・村長答申（3 月 30 日）

2. 障害者地域生活支援事業（村受託事業）

(1) 三町村（読谷村・嘉手納町・北谷町）手話奉仕員養成講座（入門）

聴覚に障がいをもつ方の生活や福祉制度、社会環境についての理解を深めるとともに、日常生活に必要なコミュニケーションの確保と、聴覚障がい者の自立と社会参加の促進を図り、手話奉仕員の人材養成を目的として開催した。

■期 間 令和 7 年 5 月 12 日（月）～令和 8 年 3 月 16 日（月）全 35 回

■講 師 ろう講師 中村成将 氏

聴 講 師 砂川まゆみ 氏

外部講師 言語聴覚士 城間陽子 氏

■受講者 20 名（修了生 12 名）オブザーバーとして 8 名の方も参加

(2) アルコール問題への取り組みの現状と今後の支援体制の構築に向けた

情報交換会

断酒会の活動内容や支援の実際について理解を深めるとともに、情報交換を通じて、アルコール問題を抱える当事者及び家族への支援の輪を広げ、地域における継続的な支援体制の構築を目的として開催した。

- 開催日 令和 8 年 3 月 25 日 (水)
- 内 容 アルコール問題を抱える当事者・家族支援に関する現状と課題の共有
- 参加者 読谷断酒会 会長 上地高志 氏 読谷断酒家族会 会長 上地清子 氏

(3)ペアレントトレーニング【導入編】

子育て講座

「困った!」が「わかった!」に変わる!!～ペアレントトレーニングを知ろう～
ペアレント・トレーニングとは、親が子どものもつ困難さを理解し、親と子がより良いコミュニケーションで家庭生活がおくれるようになることに主眼を置き、子育てに不安を持つ親支援として、子どもと大人が肯定的なコミュニケーションで信頼関係をつくるための有用な方法である。

今回は、子どもの行動などの“困った”が「わかった!」に変わるよう、子どもとの関わり方をペアレントトレーニングトレーナーにお話して頂き、「より良い親子関係づくり」を学んだ。

- 実施日 令和 7 年 7 月 13 日(日)
- 講 師 ペアレントトレーニングトレーナー
岡崎綾子 氏 (NPO 法人ペア・さぽーとペアトレ研究会)
- 参加者 25 名 (村内 21 名・村外 4 名)

{	一般村民	11 名、	保育園関係	7 名
	児童デイ	4 名、	村議会議員	1 名
	その他	1 名		

(4) ペアレントトレーニング講座

発達障がい及び発達の関わりで困り感を抱えている保護者を支援することを目的にペアレントトレーニング講座を開催した。

- 期 間 令和 7 年 9 月 19 日 (金) ～ 令和 8 年 2 月 13 日 (金)
全 8 回 + フォローアップ
- 講 師 岡崎綾子 氏 (NPO 法人ペア・さぽーと ペアトレ研究会)
岡崎瑞希 氏
- 受講者 5 名

（５）ペアレントトレーニング（卒業生フォローアップ講座）

ペアレントトレーニングで学んだことを振り返り、修了後の子どもの成長の様子を互いに報告した。参加者の子どもの年代の幅が広がるため、就学や進学、思春期の子どもへの関わり、地域の福祉サービスや教育的支援の情報など、様々な情報を得られる貴重な機会となった。

- 実施日 令和８年２月２０日(金)
- 講 師 岡崎綾子 氏（ＮＰＯ法人ペア・さぼーと ペアトレ研究会）
岡崎瑞希 氏
- 参加者 ６名

（６）ペアレントプログラム

ペアレント・トレーニングの前段階の位置づけであるペアレント・プログラムは、発達障がいの有無によらない子育てに困り感のある親支援ができ、同時に講師研修として支援者を育成していくことができる。子育て中の親支援と講師研修として人材育成を行い、地域の事業所が独自開催（自走化）でき、地域にペアプロが根付くことをめざして開催した。

- 期 間 令和７年９月９日（火）～令和８年１月１３日（火）
全６回＋フォローアップ
- 場 所 読谷村総合福祉センター ■ 参加者 講師研修４名、保護者５名

（７）自分に合った防災を考える学習会 ～いざという時に困らないために～

「災害」はいつ起こるか分かりません。一人ひとりが「もしも」の時にどのような備え、対応が必要なのかを学びました。

自分で自分の命を守るために、自分に合った防災を考え、災害時に適切な判断と初期対応ができるように、基本的な救護法を学び、お互い助け合える関係性づくりを築くことを目的に開催しました。

- 開催日 令和８年３月３日（火）
- 講 師 (株)かりゆし・21（防災サポート沖縄）
- 内 容 救護法（ケガの手当て、AEDの使い方、気道異物除去）
避難時持ち出しグッズ（障がい別に必要な持ち物）
身近なもので作る防災グッズ（担架、スリッパ等）と避難支援
- 対 象 読谷村身体障害者協会、手話サークル花織、手話サークルゆんたんじゃ、
リーディングサービスともしび、要約筆記サークルほほえみ
- 参加者 24名

3. 読谷村外出支援サービス事業（村受託事業）

村内に住む要援護高齢者及び身体障がい者等に対し、「はいさい号（リフト車）」を運行し、医療機関、公共施設等への移動を支援する。高齢者の生きがいと社会参加を促進し、外出の支援並びに福祉の向上を図る事を目的としている

【利用登録状況】 ◇登録者数 14 名（新規登録者数 6 名、利用停止・取消 7 名）

【利用状況】 ◇利用述べ回数 47 回 ◇実利用者数 9 名

◇運行時間 48 時間 17 分

○利用実績

※その他（入院・退院）

利用状況	項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	利用回数	5	3	5	6	2	6	3	4	3	5	2	3	47
	実利用人数	5	3	3	4	2	4	3	4	3	4	2	3	40
目的	通院加療	5	4	3	6	2	6	3	5	3	5	2	6	48
	そ の 他	0	0	2	1	1	1	0	0	0	1	0	0	6

4. 福祉相談事業

福祉相談事業は地域住民のあらゆる福祉相談を受け各関係機関へ繋げると共に福祉のニーズを把握し、住み慣れた地域で安心した生活が送れるよう推進した。

（１）心配ごと相談所開設状況

誰もが身近に日常生活上のあらゆる悩みや心配ごとを気軽に相談できる窓口として社協窓口にて相談対応を実施。専門的な相談内容については、専門相談日を設け対応を行った。

- ① 法律相談（令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月・2 か月に 1 回第 3 月曜日）／相談件数 12 件
- ② 就労相談（令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月の毎週金曜日）／相談件数 22 件

（２）日常生活自立支援事業（福祉サービス利用援助事業）県社協受託事業

日常生活自立支援事業とは、認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者等のうち判断が十分でない方が地域において自立した生活が送れるよう、利用者との契約に基づき、福祉サービスの利用援助や金銭管理援助、通帳・印鑑等の書類預かりを行う事業である。

【令和 7 年度 日常生活自立支援事業利用状況】

- ①相談援助件数累計（問い合わせ・相談援助件数）

	認知症高齢者等	知的障害者等	精神障害者等	不明・その他	合 計
問合わせ件数	0	1	0	0	1
初回相談別件数	2	2	4	1	9
相談援助件数	151	2	216	0	369
合 計	153	5	220	1	379

②実利用者数 8名（認知症高齢者2名・精神障がい者6名）

※新規契約者1名（精神障がい者1名）／契約終了者2名（精神障がい者2名）

※契約準備件数（2ヶ月後までの予定）1名

③書類等預かり件数（通帳・印鑑等の保管）8件

④生活支援員登録者数4名（うち活動者2名）

【専門員研修会】

令和7年8月 令和7年度日常生活自立支援事業研究協議会 参加（1名）

令和8年2月 令和7年度権利擁護セミナー 参加（1名）

令和8年3月 知って、学んで活用しよう成年後見制度 参加（2名）

（3）緊急時における通帳等一時預かり事業

日常生活自立支援事業や成年後見制度等の活用がすぐには困難であり、その間に日常生活に支障をきたす場合に限り、制度利用開始となるまでの暫定的措置として通帳等の一時預かりを行う事業。

預かり件数 1名（認知症高齢者1名）／成年後見制度申立て期間中

5. 福祉サービス苦情解決事業の実施

福祉サービス苦情解決事業は、利用者などからの苦情に対し、適切な解決に努めるために、職員を配置し、利用者の満足度を高めることや、利用者個人の権利を擁護するとともに、利用者が福祉サービスを適切に利用できるよう支援した。

■福祉サービス苦情解決事業における職員配置

①苦情解決責任者（事務局長）

②苦情受付担当者（介護保険事業所・法人事務局）

（1）要望等・苦情受付件数（確認中）

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
要望等件数	3件	3件	0件	2件	1件
苦情受付件数	3件	2件	3件	3件	2件

【事業所別件数】

■通所介護事業所 要望等件数 0件

苦情受付件数 1件

■訪問介護事業所 要望等件数 1件

苦情受付件数 1件

■居宅介護支援事業所 要望等件数 0件

苦情受付件数 0件

(2) 苦情対応情報交換会

福祉サービスに係る苦情解決第三者委員、福祉サービス事業3事業所管理者、苦情解決責任者、苦情受付担当で福祉サービスの現状報告や苦情対応に関する情報交換を実施。

実施日	内容	参加者
令和8年 3月11日(水)	福祉サービスに係わる苦情対応に関する情報交換会 ・苦情解決規程の確認 ・苦情受付様式の確認 ・令和7年度現在の報告(現状報告) ・重要事項説明書の内容確認	苦情解決第三者委員 読社協福祉サービス 事業管理者 (通所・訪問・居宅) 事務局長、事業係長

6. 福祉教育事業の推進

法人保育園、村立幼稚園、小中高校を「読谷村福祉教育推進校(園)」として指定し、福祉教育を展開することにより、地域で暮らす多様な人々と出会い、お互いに理解を重ね、「ともに生きていく」地域社会づくりを目指すことを目的として実施した。

(1) 福祉教育推進校(園) 指定及び助成金交付 助成金額合計 395,180 円

	福祉教育推進指定校(園)	助成金額
保育園4園 (上限30,000円)	のぐさ保育園、咲く原保育園、たけのこ保育園、ふれ愛保育園	105,252円
小学校5校 (上限60,000円)	古堅小学校、渡慶次小学校、喜名小学校、古堅南小学校、 読谷小学校	259,928円
高等学校 (上限30,000円)	読谷高等学校	30,000円

(2) 「福祉教育体験」の相談支援

福祉教育体験学習を通して多様性について理解を深めることを目的に、学校や地域からの相談を受け、日程や講師などを調整し支援を行った。

協力：村身体障害者協会、民生委員児童委員、村内事業所

学校名	内容	講師等
古堅南小学校 (4年生)	■令和7年6月26日 ・ふくしについて	古堅南小学校体育館 講話 社協職員
	■令和7年12月24日 ・視覚障がい者及び盲導犬への理解 (盲導犬ユーザー講話)	古堅南小学校体育館 講師 内間由美氏 盲導犬 内間フジ
渡慶次小学校 (4年生)	■令和8年1月16日 ・視覚障がい者について学ぶ (アイマスク体験及び講話)	渡慶次小学校体育館 講話 社協職員 協力 読谷村民生委員児童委員

喜名小学校 (4年生)	■ 令和7年9月10日 ・ ふくしについて	喜名小学校教室前広場 講話 社協職員
	■ 令和7年9月17日 ・ 視覚障がい者及び盲導犬への理解 (盲導犬ユーザー講話)	古堅南小学校体育館 講 師 内間由美 氏 盲導犬 内間フジ
	■ 令和7年10月28日～11月7日 ・ 高齢者への理解(高齢者疑似体験)	喜名小学校 視聴覚室 用具レンタル (嘉手納町社会福祉協議会より借用)
	■ 令和7年11月18日 ・ 身体障がいへの理解 (電動車いすユーザー講話)	喜名小学校教室前広場 講師 宮城幸春 氏
	■ 令和7年12月4日 ・ 視覚障がい者について学ぶ (アイマスク体験及び講話)	喜名小学校体育館 講話 社協職員 協力 読谷村民生委員児童委員
古堅小学校 (4年生)	■ 令和7年9月18日 ・ ふくしについて講話	古堅小学校多目的室 講話 社協職員
	令和7年11月13日 ・ 視覚障がい者及び盲導犬への理解 (盲導犬ユーザー講話)	古堅小学校体育館 講 師 内間由美 氏 盲導犬 内間フジ
読谷小学校 (4年生)	■ 令和7年6月9日 ・ ふくしについて	読谷小学校2階広場 講話 社協職員
	■ 令和7年9月24日～10月10日 ・ 高齢者への理解(高齢者疑似体験)	読谷小学校 用具レンタル (嘉手納町社会福祉協議会より借用)
	■ 令和7年12月1日 ・ 視覚障がい者について学ぶ (アイマスク体験及び講話)	読谷小学校体育館 講話 社協職員 協力 読谷村民生委員児童委員
	■ 令和7年12月17日 ・ 身体障がいへの理解 (電動車いすユーザー講話)	読谷小学校体育館 講師 宮城幸春 氏
	■ 令和8年1月13日 ・ 視覚障がい者及び盲導犬への理解 (盲導犬ユーザー講話)	読谷小学校体育館 講 師 内間由美 氏 盲導犬 内間フジ
読谷高等学校	■ 令和7年10月23日 保育探求A授業 ・ 障がい者への理解 (障がい者との交流 未就学児との交流)	きらめきキッズ大湾東 協力 有限会社 ケアセンターきらめき
	■ 令和7年11月23日 保育探求B授業 ・ 障がい者への理解 (障がい者との交流 未就学児との交流)	きらめきキッズ大湾東 協力 有限会社 ケアセンターきらめき
	■ 令和8年1月27日 JRC 同好会メンバー ・ まなびフェスタに向けた車いす体験事前学習	読谷高校校内 対応 社協職員
	■ 令和7年2月1日 JRC 同好会メンバー ・ まなびフェスタにて車いす体験	読谷村文化センター中ホール 協力 読谷高等学校

ケアマネジャー 連絡会	■ 令和 7 年 4 月 18 日 ・ 超高齢者社会体験ゲーム コミュニティコーピング体験	読谷村役場会議室 対応 社協職員
民児協 (ひとり親部会)	■ 令和 7 年 8 月 21 日 ・ 超高齢者社会体験ゲーム コミュニティコーピング体験	読谷村総合福祉センター団体室 対応 社協職員

(3) 第38回いもっ子 SCHOOL (読谷村・嘉手納町社協合同事業)

読谷村と嘉手納町の中・高校生を対象に、地域の課題について学ぶと共にお互いの交流を深め、今後のボランティア活動の輪を広げることを目的として実施している。

今回は「チャレンジ防災！今日からできる備え」をテーマに防災・減災について学び、理解を深め、若い世代の防災意識を高めることで、地域の防災力が上がり、有事の時に活躍してくれる人材を育成すると共に嘉手納町、読谷村の中・高校生の交流を深め、地域福祉を担う人材の輪を広げることを目的として開催。

日 付	内 容	場 所
令和 7 年 5 月 1 日	・ 令和 6 年度のふりかえり ・ 今年度の実施に向けて	嘉手納町総合福祉センター
令和 7 年 9 月 24 日	・ 今年度の実施に向けて	読谷村総合福祉センター
令和 7 年 10 月 6 日	・ 『チャレンジ防災！今日からできる備え』について 講師と打合せ 講師 NPO法人防災サポート沖縄／(株)かりゆし・21	読谷村総合福祉センター
令和 7 年 10 月 28 日	・ 『チャレンジ防災！今日からできる備え』について 講師と打合せ 講師 NPO法人防災サポート沖縄／(株)	読谷村総合福祉センター

※ 11 月 16 日(日)の日程で募集したが参加希望者がいなかったため開催中止

7. ボランティア活動支援の推進

ボランティア活動を通して住みよい地域づくりを目指している地域ボランティアの活動を支援するために、活動資金の助成及び読谷村ボランティア団体連絡協議会との連携を図り、ボランティア活動への住民参加を広く推進した。

(1) ボランティア団体 (ボランティア団体連絡協議会加入団体)

ゆいまーる共生事業 (23 団体)	ユンタンザ歌の会	更生保護女性会
リーディングサービス「ともしび」	手話サークル「ゆんたんじゃ」	家庭倫理の会読谷支部
読谷村赤十字奉仕団	手話サークル「花織」	要約筆記サークル「ほほえみ」

(2) ボランティア保険の加入促進 (加入 22 件 411 名)

(3) ボランティアコーディネート活動

◎相談内容による分類件数(合計 105 件)

相 談 内 容	件数	相 談 内 容	件数
ボランティア希望に関すること	3 件	職場体験に関すること	2 件
ボランティア派遣に関すること	7 件	学校との福祉教育に関すること	45 件
福祉団体・ボランティア団体に関すること	6 件	清掃相談・実施に関すること	0 件
読谷村ボランティア団体連絡協議会に関すること	20 件	ボランティア活動保険案内・受付	22 件

(4) 読谷村ボランティア団体連絡協議会への支援

令和 7 年度 12 回/年	●会議 読谷村ボランティア団体連絡協議会の会議参加	読谷村総合福祉センター
-------------------	------------------------------	-------------

(5) 街頭募金等への協力

学生ボランティアや民生委員児童委員のご協力のもと、村内の大型スーパー等で「赤い羽根共同募金運動」の街頭募金運動へ協力をした。

場所 サンエー大湾シティ、マックスバリュ読谷店、マックスバリュ座喜味店

日付 ①11月16日(日) ボランティア 12 名 ②11月30日(日) ボランティア 16 名

(6) ゆいまーる共生事業の支援

ゆいまーる共生事業へレク用品の貸出を行い、活動の充実を支援した。

【総貸出件数 86 件】

レク用品一覧		
ボッチャ 2 セット	ラダーゲッター 2 セット	たいこ相撲 1 セット
スロットカーリング 1 セット	バッコー 2 セット	釣りっこ
レクゴルフ&ボウリング 1 セット	点鳥ルーレット 1 セット	ソフトスティック 1 セット
モルック 1 セット		

(7) 音訳ボランティア養成講座

視覚障がい者への情報提供を行うために、音訳ボランティアを養成し、障がい者福祉の理解を深めることを目的に開催した。

■開催期間 令和 7 年 7 月 16 日(水)~令和 7 年 9 月 17 日(水) 全 10 回

■講 師 嘉数明美 氏

(朗読会「道」代表朗読指導、ヴォイストレーニング講師)

■受講生 15 名(うち 13 名が修了し 12 名が音訳ボランティアとしてともしびへ登録)

8. 在宅福祉サービス事業

住み慣れた地域で安心して生活できるようきめ細やかな在宅福祉サービス事業が求められている中、地域住民相互の理解と支え合いの福祉活動を推進した。

(1) 食事サービス事業

週1回行っている「食事サービス事業」は、配達ボランティアの方々の深いご理解とご協力を受けて見守りが必要な世帯を対象に友愛訪問を行い、安否確認を目的に事業を実施した。

◎食事サービス利用状況

(令和8年3月現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平均 利用人数	57	55	53	55	56	55	54	53	53	52	51	50	54人
延べ食数	228	274	211	277	225	219	269	211	210	209	204	199	2,736食
実施日数	4	5	4	5	4	4	5	4	4	4	4	4	51日

◎地域別利用状況(総件数 72 件)

(令和7年4月～令和8年3月現在)

地域	件数	地域	件数	地域	件数	地域	件数	地域	件数
長浜	8	高志保	6	横田	2	伊良皆	1	座喜味	3
瀬名波	4	波平	5	楚辺	8	渡具知	5	社協関係	2
儀間	2	都屋	2	大添	7	古堅	1		
渡慶次	6	喜名	2	大木	5	比謝	3		

9. 児童福祉活動事業の推進

(1) 子どもの居場所づくり支援事業(村受託事業)

こどもの貧困対策に関する大綱にある「子育てや貧困を家庭の責任とするのではなく、地域や社会全体で課題を解決するという意識を持ち、こどものことを第一に考えた適切な支援を包括的かつ早期に講じる」という理念のもと、今年度はこども宅食事業・フードバンク事業・こどもの居場所・ネットワークの構築・長期休暇時のこどもの居場所キャラバン隊を行った。また、事業を展開していくための情報収集、地域との意見交換、視察研修等を企画し実施した。

①こどもサポートネットよみたん

こどもの居場所、支援を行っている企業、団体、個人とネットワークの構築を行い、地域のこども達が安心して過ごせる環境を作っていくために互いの良いところ、困り感の共有を行った。

- ・第1回（7月）情報交換会 ・第2回（12月）情報交換会
- ・第3回（1月）視察研修（田場公民館） ・第4回（2月）パステルアート研修
（加盟団体・企業・個人）
- 読谷村社会福祉協議会（事務局） ■NPO法人 エンカレッジ ■真常寺 こども食堂
- 株式会社 ナチュラルブルー（一般社団法人 沖縄美ら海教育学校） ■きじむな一広場
- 一般社団法人レアーズ ■一般社団法人あいのいえ ■こども食堂 しーさー家

②コーディネート業務

- ・加盟団体の運営相談（保険、法人化、地域とのコラボ 等）
- ・新規相談（5団体 うち3団体村内開催、2団体未開催）
- ・JA ゆんた市場との連携 こどもの関係機関へ繋げる

③地域会議

- ・「魔法のプロジェクト」教育 ICT（3回）
- ・喜名地域協育振興プロジェクト会議（5回）
- ・読谷中学校、古堅中学校連絡会
- ・県内社協と情報交換会

④こども宅食

生活困窮世帯や一時的に支援が必要な世帯へ食の支援を行いながら必要な支援や相談機関へ繋げるアウトリーチ支援を行った。

■11世帯 29名 延べ数 194食（※長期休暇時 こども未来課 6世帯 17名 延べ 92食）

⑤こどもの居場所の開設

ホッと安心できる居場所。子ども達が気軽に来られる居場所づくりを行った。

■放課後の居場所 延べ数 2275名（読谷中学校）、
2月プレオープン 93名（古堅中学校）

⑥夏休みみんなで食べよう朝ご飯キャラバン（令和7年8月）

地域に開かれた公民館等で、地域の皆さんと一緒に子ども達へ朝ご飯の提供を行い、食の提供・多世代交流の機会や事業周知・地域における担い手の発掘や今後の活動展開を一緒に考えるきっかけづくりとして実施した。

ア) 公民館 6か所 食事提供数 373食

開催場所	児童	保護者	地域ボランティア	学生ボランティア
伊良皆公民館	26名	2名	6名	11名
喜名公民館	104名	5名	6名	18名
大木公民館	19名	10名	10名	9名
儀間公民館	40名	9名	4名	11名
都屋公民館	17名	1名	4名	16名
渡具知公民館	24名	5名	7名	9名

⑦春休みこども食堂交流キャラバン（令和 8 年 3 月）

地域に開かれた公民館等で、地域の皆さんや学生ボランティアと一緒に調理体験を行い、食事を通して多世代交流を図ることを目的に活動を行った。

ア) 公民館 5 箇所 食事提供数 356 食

開催場所	児童	保護者	地域ボランティア	学生ボランティア
座喜味公民館	58 名	8 名	5 名	14 名
波平公民館	28 名	3 名	3 名	8 名
儀間公民館	48 名	11 名	3 名	11 名
古堅公民館	62 名	11 名	8 名	11 名
大木公民館	34 名	14 名	7 名	11 名

イ) 団地 1 箇所 食事提供数 37 食

開催場所	児童	大人	地域ボランティア	学生ボランティア
波平団地	20 名	5 名	4 名	8 名

ウ) 児童館 1 箇所 1 回 軽食提供数 75 食

開催場所	児童	大人
みらい児童館 (4/3)	64 名	11 名

⑧こどもの居場所 学生ボランティア協力

・こどもの居場所キャラバンの企画・運営・中高生のボランティアのサポートなど（8 月・3 月）

⑨制服、学用品リユース活動

利用世帯数：145 世帯 ※重複世帯あり

幼稚園	小学校	読谷中	古堅中	読谷高校	その他
2 世帯	18 世帯	61 世帯	42 世帯	12 世帯	10 世帯

利用件数合計：305 件

体育着 (小学校)	体育着 (中学校)	ジャージ (中学校)	上着 (セーラ)	スカート	上着 (シャツ)	ズボン	学ラン	式服	幼稚園服	その他 (学用品)	未記入
16	25	25	49	63	20	30	18	10	0	41 (11)	8

10. 地域福祉ネットワーク事業の推進（村受託事業）

～ 地域における生活困窮者支援事業等のための共助基盤づくり事業 ～

地域住民・行政・社協が一体となって、個別ケースへの支援や地域の特性に応じた地域社会を基盤とした支え合う仕組みの構築を目指し、本事業を推進した。

(1) 相談状況について

相談者や地域住民からあがった相談に対応し、相談内容にあった関係機関と連携しながら、問題解決を図り、相談者が人生の幸福感を感じられるようサポートを行った。また、個別支援会議を行い、相談者の抱える生きづらさを関係者で共有し、一人ひとりが住みやすい環境づくりを支援した。

①新規・継続件数

	新規相談実数	継続相談実数	合計
相談対象者実数	17 名	76 名	93 名

②相談形態別件数

	訪問	来所	電話	その他	合 計
相談延べ件数	80 件	45 件	334 件	18 件	477 件

③相談者内訳

相 談 者	件 数
本人	248
家族	40
地域住民	28
民生委員児童委員	6
自治会・地域支え合い活動委員協力員	11
行政機関	89
高齢者サービス機関	3
障がい福祉サービス機関	11
福祉事務所	40
生活困窮者自立支援機関	14
医療機関	12
学校・教育機関	0
見守り協定事業者	0
その他	54
合 計	556 件

③相談支援内容別件数

相談内容（複数項目選択有）	件数
子どもに関すること	15
障がいに関すること	9
就労に関すること	26
年金に関すること	0
介護・認知に関すること	4
依存症、精神疾患に関すること	50
病気、健康に関すること	78
住居に関すること	48
日常生活自立支援事業・成年後見制度に関すること	4
D V ・虐待に関すること	6
ご近所トラブルに関すること	21
生活支援に関すること（見守り等）	62
ゴミ屋敷に関すること	6
ニート・ひきこもりに関すること	1
災害時要援護者に関すること	0
生活困窮に関すること	150
生活福祉資金に関すること	3
法外援護に関すること	0
専門相談（弁護士・司法書士等）	0
社協事業に関すること	0
その他	259
合 計	742 件

（２）地域支え合い推進事業（よみたん助け合い地域づくり事業）

生活困窮者を始め、支援が必要な人と地域の繋がりを適切に確保するとともに、これらを地域全体で支える基盤づくりを通して、地域福祉の推進を図る事を目的として実施する。

支援を入り口に身近な地域で誰でも安心して生活維持ができるように地域住民相互の支え合いによる共助の取組みの活性化を図る。

①フードバンク

【寄贈・募集】

募集媒体	社協広報・社協SNSの活用等
寄贈件数	182 件
寄贈内容	米、カップ麺、レトルト、缶詰、乾麺、調味料、野菜類、果物類、肉、日用品、紙オムツ、粉ミルク、お菓子等
主な寄附者	村民、自治会、民生委員児童委員、更生保護女性会、村内企業、村外企業、村内農業従事者、社会福祉法人等

【募集方法】

- 食料品、生活用品寄贈を村民、企業、団体へ協力を呼びかけた。
- ひとり一品運動を実施し社協入口にかごを設置した。

【提供・支援】

- 食料・生活用日確保困難世帯への支援
 - ・社協への相談者、関係機関や相談支援機関からの食料・生活用品等の支援の相談があった際、生活の立て直しが完了するまでの間や緊急的な食料・生活用品の支援を行った。
- 必要な世帯へ届く取組として自治会や関係先に電話やFAXにて在庫状況の発信。
- 寄贈があった生鮮食品の鮮度が保たれるよう冷凍庫を活用し受け渡し可能な物品に幅ができた。

■食料支援月別件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	51	38	14	13	15	21	22	21	20	22	17	14	268

②令和7年度生活困窮者への緊急支援活動助成金（実施/沖縄県共同募金会）の活用

- (ア) 「よみたんフードバンク事業」にて相談来所や訪問時に生活に困っている世帯へ食料品の配布を実施するため食品の購入。
- (イ) 「歳末地域たすけあい事業」にて食料品を配布するため食品の購入。年末年始に生活に困っている世帯を、自治会・民生委員・社協、役場相談員が訪問し現状確認や必要な制度等の情報提供を行い、地域で孤立することなく支え合えるよう支援を実施。
- (ウ) まだ食べられる生鮮食品を村内農家や企業から提供頂き保管するための冷蔵庫を購入。「よみたんフードバンク事業」にて困窮世帯や子ども食堂等へ生鮮食品を提供。

③ファミマフードドライブ

『もったいない』を『ありがとう』を合言葉に、寄付したい人が気軽により身近なファミリーマートでフードバンクの取組みに参加できるよう村内ファミリーマート6店舗と本事業と食品回収における提携調印を結び、食事に困っている方への支援と家庭の食品ロス削減のためファミリーマートの店舗を起点にファミマフードドライブを開始する

実施期間（回収日時：毎月第3水曜日） 総重量：8,065 キログラム 総数：42 点

④イベント型フードバンク（子育て応援企画）

(1)子育て世帯応援企画 フードパントリー

日 時	内 容	備 考
令和 7 年 5 月 10 日(日)	・フードパントリー 50 世帯 ・こども食堂 100 食限定（軟骨ソーキ丼）	11 時～
令和 7 年 12 月 18 日(木)	・フードパントリー 30 世帯 ・制服リユース開催 8 件	17 時～20 時

（３）社会的孤立をなくすためのプラットフォームづくり(福祉教育推進事業)

～コミュニティコーピング体験～

物価高騰の影響で全国的に困窮世帯が増加傾向にあり、さらに複合化した課題を持った世帯や個人が増えている。どこに相談していいのかわからなく孤立する方も多くいる中、人と地域資源をつなげることで「社会的孤立」を解消する協力型ゲームである「コミュニティコーピング」を通し、孤立をなくすために地域や個人で何が出来るのかを考えるきっかけづくりをおこなった。

■ケアマネ連絡会

令和 7 年 4 月 18 日（金）午後 2 時～4 時

■民生委員児童委員(ひとり親福祉部会)

令和 7 年 8 月 21 日（木）午前 10 時～12 時

（４）福祉団体情報交換交流会

長年実施していた福祉団体行事(納涼祭り、運動会)がコロナウイルス感染症拡大予防のため、ここ数年開催見送りをしていた。また、それぞれ団体も会員の高齢化、会員数の減少などこれまでの活動継続について悩みがあることを個々の団体から聞いており、各団体の悩みや課題を共有しながら連携した取り組みの模索ができないかと令和 7 年度より福祉団体情報交換会をおこなった。話し合いを重ねる中で互いの交流と顔が見えた繋がりを構築していくことを確認し、各団体の親睦を深めることを目的に『第 1 回モルック交流会』を開催した。

■情報交換会

日 付	内 容	場 所
令和 7 年 6 月 9 日	・各福祉団体の現状の共有	読谷村総合福祉センター
令和 7 年 8 月 18 日	・前回のふりかえり・交流会に向けて	読谷村総合福祉センター
令和 7 年 11 月 10 日	・前回のふりかえり・モルック交流会に向けて	読谷村総合福祉センター

■モルック交流会

令和 8 年 1 月 17 日(土) 場 所 読谷村総合福祉センター 大ホール

参加団体 ①手をつなぐ育成会 ②精神療養者家族会 ③身体障害者協会 ④更生保護女性会

参加人数 58 名

協 力 沖縄県身体障害者協会、読谷村民生委員児童委員連絡会協議会

1 1. 生活支援体制整備事業の推進（村受託事業）

（１）地域支え合い体制づくりの推進

住民同士の支え合い体制の構築に向けて自治会、民生委員児童委員、地域協力員との協働で要配慮者の把握、気に向け活動の環境整備を継続して行い、令和 7 年度は平常時からの地域においての見守り、気に向け等の支援が必要な方への総合的な支え合いの体制づくりを目的に支え合い活動を行った。また、役場職員、社協職員が関わり開催することで各委員が無理なく支え合い活動出来る体制づくりに取り組んだ。

◇地域支え合い体制づくり会議・活動実施状況

（令和 8 年 3 月現在）

	地域名	支え合い活動委員会関係者	対象者数	実施回数
1	長浜地域	自治会長、民生委員、地域協力員、福祉課	27 名	12 回
2	渡慶次地域	自治会長、公民館職員、民生委員、地域協力員、福祉課、瀬名波駐在所	12 名	4 回
3	宇座地域	自治会長、公民館職員、民生委員、地域協力員、福祉課	38 名	11 回
4	瀬名波地域	自治会長、公民館職員、民生委員、地域代表、福祉課 瀬名波駐在所	33 名	10 回
5	儀間地域	自治会長、公民館職員、民生委員、老人会代表、 ゆいまーる代表、福祉課	5 名	10 回
6	高志保地域	自治会長、公民館職員、民生委員、地域協力員、福祉課	19 名	11 回
7	波平地域	自治会長、民生委員、老人会長、ゆいまーる会長、ゆいまーる健康チェック、地域協力員、村議、福祉課	20 名	10 回
8	上地地域	自治会長、民生委員、福祉課	14 名	10 回
9	都屋地域	自治会長、公民館職員、民生委員、地域協力員 ゆいまーる会長、福祉課	31 名	6 回
10	横田地域	自治会長、公民館職員、民生委員、地域協力員、福祉課	40 名	12 回
11	大添地域	自治会長、公民館職員、民生委員、福祉課	30 名	9 回
12	大木地域	自治会長、公民館職員、民生委員、地域協力員、福祉課	46 名	11 回
13	伊良皆地域	自治会長、公民館職員、民生委員、福祉課	26 名	9 回
14	牧原地域	自治会長、民生委員、福祉課 ※ 2 地域合同開催	11 名	6 回
15	長田地域			
16	渡具知地域	自治会長、公民館職員、民生委員、地域協力員、福祉課	26 名	6 回
17	古堅地域	自治会長、公民館職員、民生委員、地域協力員、福祉課	21 名	3 回
18	大湾地域	自治会長、公民館職員、民生委員、福祉課 ※ 2 地域合同開催	32 名	6 回
19	比謝町地域			

20	比謝地域	自治会長、公民館職員、民生委員、地域協力員、福祉課	27 名	8 回
21	楚辺地域	自治会長、民生委員、福祉課	32 名	11 回
22	喜名地域	自治会長、公民館職員、地域協力員、民生委員、福祉課	34 名	6 回
23	親志地域	自治会長、民生委員、福祉課	17 名	5 回
24	座喜味地域	自治会長、公民館職員、民生委員、福祉課	28 名	10 回

(2) 地域支え合い体制づくり推進事業活動助成金の交付

地域支え合い活動委員会に対して、活動の促進と、地域福祉の増進を図ることを目的に活動助成金を交付した。

(3) 生活支援体制整備 協議体

支え合い活動では、住民がいつまでも安心して暮らし続けられる地域づくりを目指し、令和 7 年度に以下の取り組みを実施した。

○認知症への理解促進と支え合い活動の再確認

支え合い委員メンバーを中心に、認知症の理解を深めるために認知症専門医による講演会を開催し、またカードゲームを使い、見守り・気にかかけの活動をわが事として広げる手段の体験を行った。併せて、これまでの支え合い活動の効果を振り返り、地域単位での『見守りや気にかかけ』活動に関する情報共有を行った。

○見守り協定事業所との情報共有

見守り協定を締結している事業所が、どのような立場・方法で『見守りや気にかかけ』活動を行うかを共有した。情報共有のすることで、関係者が不安なく活動できる環境づくりを進め、地域の見守り体制の強化及び今後の活動に生かすことを目的に実施した。

■第 2 層協議体（中圏域）

【第 1 回】

日 時	場 所	参加人数
令和 7 年 12 月 10 日（金）	読谷村総合福祉センター	8 名
【参加者】見守り協定事業所（琉球新報販売店、沖縄タイムス販売店） 【内 容】 ・講話『認知症の方への対応方法について』 ・活動共有、情報交換 ⇒ 夜間帯や朝方の見守り、気にかかけに関する事 ⇒ 活動に関する課題 等		

■第3層協議体（小圏域）

【第1回】

日 時	内 訳	参加者
令和7年10月10日（金）	渡慶次小学校区地域支え合い活動委員会	8名
	読谷小学校区地域支え合い活動委員会	4名
	喜名小学校区地域支え合い活動委員会	4名
	古堅小学校区地域支え合い活動委員会	11名
	古堅南小学校区地域支え合い活動委員会	7名
	その他（村民、協力員、行政）	19名
【参加者】各自治会長、各支え合い活動委員会メンバー、福祉課、見守り協定事業所 今講演に興味がある方 【内 容】 認知症専門医に聞く『認知症の備えと理解』 ～思いやりとつながりがある所では、認知症は悪化しにくい～		

【第2回】

日 時	内 訳	参加者
令和7年11月19日（水）	渡慶次小学校区地域支え合い活動委員会	6名
	読谷小学校区地域支え合い活動委員会	2名
	喜名小学校区地域支え合い活動委員会	3名
	古堅小学校区地域支え合い活動委員会	3名
	古堅南小学校区地域支え合い活動委員会	1名
【参加者】各支え合い活動委員会メンバー、福祉課 【内 容】 各地域の支え合い活動委員会の充実のために 『不測の事態を想定した日頃の気につけ、見守りについて』 ・実践1 クロスロードカードゲーム（様々な視点に触れる） ・実践2 日頃の活動へどう活かせるか？ ・実践後の情報共有(発表)		

【第3回】

日 時	内 訳	参加者
令和8年2月18日（水）	渡慶次小学校区地域支え合い活動委員会	
	・支え合いメンバー	4名
	・自治会長	2名
【参加者】 渡慶次小学校区 支え合い委員長(自治会長)、支え合い活動委員メンバー 【内 容】 各地域の支え合い活動委員会の充実のために 『渡慶次小学校区 各支え合い活動委員会の活動について』 ・今協議体の経緯説明 ・支え合い活動の効果について ・各地域での支え合い活動について情報交換		

（４）読谷村地域支え合い推進事業活動報告

広報誌「支え合いよみたん」の発行

核家族化や単身世帯の増加、地域コミュニティの変化や地域関係の希薄化が進む中、専門職だけでは地域のすべての支援ニーズに対応することが難しくなっている。このような状況で、住民同士の「支え合い」や「気かけ」がこれまで以上に重要になっている。

読谷村では、地域支え合い推進の一環として、村内24地域に支え合い活動委員会を設置し、地域ごとに支え合い活動を展開している。しかし、平時からのお隣同士のつながりや、支え合いの意義が十分に伝わっていないという課題がある。

そこで、「孤立させない、孤独にならない」「支えられる、支える」の関係づくりを日常的に意識する住民を増やし、地域福祉の向上と支え合い活動の充実を図ることを目的に、また、住み慣れた地域で暮らし続けるために健康寿命の大切さや、ボランティア活動が自分自身の健康にも良い影響を与えることを住民に伝えることも目的に広報紙を発行した。

（５）読谷村地域支え合い推進事業 地域見守りあいさつ運動

小中学校児童生徒の徒歩登下校、またその他の時間の防犯対策を推進し地域でのつながり、見守り合いの関係で安心安全な地域づくりを行うことを推奨する。また高齢者・障がいのある方の地域での役割づくりのひとつになることも目的に行った。

【ながらパトロール隊】

- 事業に賛同頂ける方へ速やかに渡せるように希望地域ごとに、ベスト、帽子を常備している。
- 登下校時や朝夕に自宅または通学路でベストや帽子を着用して、交通安全、声掛けや地域のパトロールを行う。

○各地域で行われている従来の見守り活動やあいさつ運動などの地域パトロールがあり、事業の活動の周知が進まない中で「ながらパトロール隊」としての活動の担い手を増やし活動しやすい環境づくりを継続するために多様な世代や事業者が日常活動の機会に気軽に実施できる「ながら見守り隊」の推進に取り組むことも必要である。

12. 福祉資金貸付事業の推進

(1) 生活福祉資金貸付事業 (県社協受託事業)

低所得者、障がい者または高齢者世帯に対し資金の貸し付けと必要な相談支援を行うことにより、経済的自立及び生活意欲の助長促進を行い、安定した生活を送れるように支援した。

■相談件数 1485 件 (本則 170 件 コロナ貸付 1,315 件)

■本則貸付申請件数 1 件 / 貸付決定件数 1 件 ◎貸付決定金額 100,000 円

	資金種類	相談件数 (延べ)	申請 件数	貸付 件数	貸付決定金額
生活 福祉資金 (本則貸付)	福祉費	71 件	件	件	円
	教育支援資金	25 件	件	件	円
	総合支援資金	1 件	件	件	円
	緊急小口資金	38 件	1 件	1 件	100,000 円
	不動産担保型生活資金	2 件	件	件	円
	臨時特例つなぎ資金	0 件	件	件	円
	生活復興支援資金	0 件	件	件	円
	該当無し	22 件	件	件	円
償還に関すること	本則	11 件			
	コロナ特例	1,315 件			
合 計		1,485 件	1 件	1 件	100,000 円

【令和 6 年度】相談件数 661 件 貸付件数 5 件 貸付決定金額 12,376,000 円

【令和 5 年度】相談件数 471 件 貸付件数 6 件 貸付決定金額 1,603,344 円

(2) 生活福祉資金コロナ特例貸付償還相談

令和 5 年 1 月から特例貸付償還が開始となっており、償還免除対象世帯への手続き案内や、償還困難な世帯への償還猶予、減額相談を行った。

■償還免除件数 1,660 件

【償還開始累計 令和 8 年 3 月 31 日】

特例貸付 償還免除	資金内容	免除件数	免除決定金額
	緊急小口資金	690 件	127,110,000 円
	総合支援資金（初回）	593 件	317,615,500 円
	総合支援資金（延長）	211 件	113,808,750 円
	総合支援資金（再貸付）	166 件	90,132,500 円
合 計		1,660 件	648,666,750 円

【免除の種類】 判定免除 次年度以降非課税（判定年度以降 非課税）／
死亡免除 ／猶予後免除 ／免責免除 含む

■ 特例貸付相談件数 申請件数合計 248 件

特例貸付 相談件数	資金種類	猶予申請 件数	猶予継続 件数	猶予後免除 件数	減額・増額 件数	非課税免除 件数
	緊急小口資金	13	24	16	35	12
	総合支援資金（初回）	17	21	16	9	10
	総合支援資金（延長）	6	15	9	2	5
	総合支援資金（再貸付）	10	14	4	1	9
合 計		46 件	74 件	45 件	47 件	36 件

（３）県社協との合同償還相談会

生活福祉資金（本則・特例）の償還が滞っている借受人を対象に相談会を実施した。

■ 合同償還相談会（２日間）

日 時 令和 7 年 8 月 13 日（水）・14 日（木）午前 9 時～午後 7 時

対象者 117 名（本則 33 件・特例 94 件） ※村内・村外・県外

相談状況

架電	来所	訪 問（２日間）		
122 件	4 件	（面談） 12 件	（不在票投函） 45 件	（不明その他） 12 件

※生活福祉資金は低所得者、障がい者または高齢者世帯の自立更生のために貸付ける制度であり、その償還金は逐次、他の対象者に貸付けるものである。

(4) コロナ特例貸付償還相談会

特例貸付資金の返済が滞っている借受人を対象に生活状況を把握し、必要なフォローアップを目的に相談会を実施する。

■第1回 償還相談会

日時 令和7年6月11日(水) 12日(木) 午前9時～午後4時

対象件数 58件(村内) ※緊急小口資金償還滞納者

架電	来所面談	不明その他
58件	11件	12件

■第2回 償還相談会

日時 令和8年2月25日(水) 26日(木) 午前9時～午後4時

対象件数 249件(村内・村外・県外) ※緊急小口資金償還滞納者

架電・入電	来所面談	訪問(2日間)		不明その他
19件	13件	(面談) 2件	(不在票投函) 1件	6件

(5) 生活福祉資金貸付事業研修会(沖縄県社協主催)

生活福祉資金貸付事業における資金の貸付業務と必要な相談支援業務のスキルアップを目的にした研修会への参加

- 新任職員研修会 期日 令和7年4月25日(金) 参加者3人
- 生活福祉資金貸付担当職員研修会 期日 令和7年10月28日(火) 参加者2人

(6) 読谷村民生金庫貸付事業

民生金庫は生活困窮世帯の自立更生のために貸付ける制度であり、その償還金は逐次、他の対象者に貸付けるものである。7年度は民生金庫貸付金の返還に関する委員会を開催。

令和7年8月15日 第1回民生金庫運営委員会(委員参加5名)

内容 返還免除に関する検討会議

意見 結果 12名全額免除(審査対象12名)

13. 法外援護事業

“つながり ささえあう みんなの地域づくり”をスローガンに、歳末たすけあい募金運動を12月に展開した。歳末たすけあい募金運動で集められた浄財を「歳末たすけあい義援金」として、令和7年12月23日に村内の支援を必要とする世帯へ配分した。

配分の際に、自治会や民生委員が訪問を行うことにより、見守りや地域とのつながり、孤立防止につながる事ができた。

◎配分金額：1,581,000円

◎配分世帯数：125世帯

	一人暮らし 老人世帯	ねたきり 老人世帯	心身障害者 世帯	長期療養者 世帯	母子・父子 世帯	多子世帯	その他 困窮世帯	合 計
自治会	16	1	11	6	3	0	13	50
民生委員	8	0	3	1	26	2	8	48
福祉課	2	0	0	0	0	0	0	2
こども未来課	0	0	5	0	6	1	4	16
社協	1	0	2	0	3	0	3	9
合 計	27	1	21	7	38	3	28	125

【令和6年度】配分金額：1,789,000円

配分世帯数：143世帯

14. その他の活動事業

(1) 福祉バスの貸出

福祉バスの運行事業は、下記のとおり各種団体活動に有効に利活用されている。

◎貸出回数 108回

利用団体名	回数	利用団体名	回数	利用団体名	回数
村内学校関係	26	ゆいまーる共生事業団体	17	村内自治会	8
民児協活動	8	読谷村老人クラブ連合会	7	各字老人会	7
福祉団体	7	福祉施設	3	ボランティア団体	4
役場関係	11	社協関係	1	その他	9

(2) 福祉車両（リフト機能付き軽自動車）貸出事業

読谷村に在住し、高齢や障がい、疾病等で福祉車両でなければ外出が難しい方を対象に、病院や公共機関への送迎、リフレッシュなどの社会参加の推進を図るために実施した。利用者数、利用回数ともに前年度より減少した。多くの村民に利用して頂くため、社協だよりやチラシ等で周知を行う。

【利用実績】

【令和6年度】利用回数 104回（前年比-19）

項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用回数	7	12	8	13	9	7	5	7	5	4	3	5	85

【利用状況】

◇利用者数 25名※令和6年度（28名） ◇月平均 7.0回※令和6年度（8.6回）

(3) 村内学校事業所等会議への参加

① 読谷中学校・古堅中学校生徒指導連絡協議会への参加

各中学校区の連絡協議会へ参加し、関係機関との情報共有を図った。

参加することでそれぞれの専門性、役割を理解し、連携した支援に繋がった。

【読谷中学校】 定例会（年3回） 会場：読谷中学校
参加者：各学校長及び教頭（渡慶次小、読谷小、喜名小、読谷高、嘉手納高、読谷中）、 村教育委員会、嘉手納警察署、青少年センター、こども未来課、青少年指導員、 民生委員児童委員、各自治会、その他（更生保護女性会等）
【古堅中学校】 定例会（年5回） 会場：古堅中学校
参加者：各学校長及び教頭（古堅小、古堅南小、読谷高、嘉手納高、古堅中）、村教育委員会、 嘉手納警察署、青少年センター、こども未来課、保護司、民生委員児童委員、各自治会、 更生保護女性会

② 地域ケア会議への参加

地域ケア会議とは、高齢者個人に対する支援の充実と、それを支える社会基盤の整備を同時に進めていく地域包括ケアシステムの充実に向けた手法であり、個々の高齢者の課題把握、解決を推進するネットワークの構築や多職種専門チームによるケアマネジメントを支援する事を目的とした会議である。

	日付	会議方式	社協参加
第1回	令和7年10月16日	対面会議	1名

(4) 福祉用具貸出事業

本会が所有している福祉用具を無料で貸出することによって、利用者の日常生活の便宜を図り福祉の増進に資することを目的とし、貸出を行った。

	車イス	杖	ポータブルトイレ	シャワーチェア	歩行器	スロープ	合計
貸出件数	103件	8件	7件	5件	3件	2件	128件

(5) 声の情報提供事業

視覚に障害のある方への情報支援として「広報よみたん」や「よみたん社協だより」等を音声にして定期的に提供する。

視覚に障害のある方の「目の代わり」となって、情報を声で伝え、その方々の生活を支援する。

○利用者 5名（令和8年3月現在）

○内 容 ①村広報誌『広報よみたん』 年12回（月1回）

②よみたん社協だより 年6回（4月、6月、8月、10月、12月、3月発行）

③支え合いよみたん（令和7年3月発行）

○協 力 音訳ボランティアグループ リーディングサービス ともしび

15. 読谷村総合福祉センターの運営

(1) 総合福祉センター利用状況

総合福祉センターは、本村の福祉活動の拠点であるとともに、福祉団体による活動、村老人クラブ連合会の生きがいサークル活動（舞踊サークル・レク・古典音楽）や手話サークルをはじめとする文化活動・研修活動・福利厚生利用の会場として広く村民及び各種団体に利用されており、地域福祉を推進する場所として活用されている。

	社 協	民 協	老人 クラブ	福 祉 施 設	福 祉 団 体	役 場	ボ ラ ン テ ィ ア	経 済 団 体	芸 能 関 係	そ の 他	合 計 （利用回数）
ホー ル	66	34	9	1	37	40	2	7	4	22	222
中 研 修 室	1	0	0	0	8	12	0	3	29	6	59
老人憩いの室	11	14	58	0	17	2	111	0	7	26	246
団 体 室	11	38	0	0	105	0	8	0	0	2	164
ボランティア室	0	10	0	0	0	0	10	0	0	0	20
合 計 （利用回数）	89	96	67	1	167	54	131	10	40	56	711

16. 読谷村生き生き健康センター運営

読谷村から指定管理を受けている読谷村生き生き健康センターは、乳児一般健診や一般介護予防の会場として利用された。また、水曜日に65歳以上の高齢者を対象とした『生き生きクラブ』を開催し、住民ボランティアを中心に体操を行っている。

令和7年度 生き生き健康センターホール利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
3歳児健診	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
1歳6ヶ月健診	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
2歳児健診	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
乳児一般健診	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
がんじゅう広場	3	3	4	3	3	4	3	2	4	3	3	5	40
わんからゲイブス	5	4	4	5	4	5	4	4	4	4	4	5	52
生き生きクラブ	4	4	4	5	4	4	5	4	4	4	4	4	50
合 計	16	15	16	17	15	17	16	14	16	15	15	18	190

17. よみたん社協共同販売センター収益事業

読谷村の伝統工芸の振興と福祉の推進を目的に、読谷やちむん市へ事務局として協力をした。

イベント名（出店・協力）	場 所	期 間
第 33 回読谷やちむん市	J A ゆんた市場	令和 8 年 2 月 21 日～22 日

18. 沖縄県共同募金会 読谷村共同募金委員会への協力

（1）赤い羽根共同募金運動への協力

地域福祉活動をはじめとする福祉事業推進の財源として赤い羽根共同募金は毎年 10 月 1 日から 3 月 31 日まで全国一斉に展開されている。

村民をはじめ、多くの職域、学校、村内外事業所等のご理解とご協力をいただき下記のとおり多くの善意が寄せられた。

目 標 額 5,000,000 円 募金実績額 5,376,766 円（達成率 107.5%）

① 戸別募金 38 件 2,057,660 円

喜 名	100,500 円	高志保	167,500 円	渡具知	100,000 円	牧 原	19,500 円
親 志	26,500 円	渡慶次	86,500 円	比 謝	37,000 円	大 添	42,000 円
座喜味	174,000 円	儀 間	57,500 円	大 湾	67,500 円	横 田	44,000 円
伊良皆	85,500 円	宇 座	113,000 円	古 堅	79,000 円	比謝団地	10,000 円
上 地	10,000 円	瀬名波	78,500 円	大 木	97,500 円	波平団地	10,000 円
波 平	155,000 円	長 浜	102,000 円	比謝砦	7,000 円	窓口納付	9,622 円
都 屋	43,500 円	楚 辺	321,538 円	長 田	13,000 円		

募金名	件数	金額	募金名	件数	金額
②法人事業所募金	105 件	1,141,500 円	⑦団体募金・募金箱	9 件	385,235 円
③個人事業所募金	52 件	329,000 円	⑧街頭募金	4 件	279,560 円
④職域募金	63 件	524,187 円	⑨県医師会他	16 件	242,747 円
⑤児童生徒募金	6 件	259,926 円	合 計	305 件	5,376,766 円
⑥個人募金	12 件	156,951 円			

【令和 6 年度】目標額 4,923,000 円 募金実績額 5,362,448 円（達成率 108.9%）

■ 赤い羽根共同募金街頭募金運動の実施

① 実施日 11月16日(日)

場 所 サンエー大湾シティ、マックスバリュ読谷店

奉仕者 民生委員児童委員

② 実施日 11月30日(日)

場 所 マックスバリュ読谷店、マックスバリュ座喜味店

奉仕者 学生ボランティア及び民生委員児童委員

(2) 歳末たすけあい募金運動への協力

“つながり ささえあう みんなの地域づくり”をスローガンに歳末たすけあい募金運動(期間:12月1日~31日)を展開した。村民や村内外事業所及び関係機関・団体等のご理解とご協力のもと下記のとおり多くの善意が寄せられました。

目 標 額 2,300,000円 募金実績額 2,272,065円 (達成率 98.8%)

①戸別募金 26件 869,244円

喜 名	41,169円	高志保	66,600円	渡具知	39,600円	牧 原	8,000円
親 志	10,600円	渡慶次	34,400円	比 謝	14,800円	大 添	16,600円
座喜味	66,400円	儀 間	26,400円	大 湾	26,800円	横 田	18,200円
伊良皆	34,200円	宇 座	45,200円	古 堅	34,000円	県営比謝団地	10,000円
上 地	5,000円	瀬名波	31,400円	大 木	38,000円	窓口納付	200円
波 平	70,200円	長 浜	40,800円	比謝砦	5,600円		
都 屋	11,600円	楚 辺	168,275円	長 田	5,200円		

募金名	件数	金額	募金名	件数	金額
②事業所募金	3件	130,000円	④団体募金	6件	292,140円
③職域募金	67件	550,681円	⑤個人募金	6件	430,000円
			合 計	108件	2,272,065円

【令和6年度】目標額 2,300,000円 募金実績額 1,786,210円 (達成率 77.7%)

19. 介護保険事業等の充実

本会では居宅介護支援事業、通所介護事業、訪問介護事業を実施した。

(1) 居宅介護支援事業・介護予防支援事業の実施

① 居宅介護支援事業（ケアマネジメント）

利用者が自立した日常生活を営むことができるよう、利用者の選択に基づき、保険医療サービス及び福祉サービスが、多様な事業者から総合的かつ効果的に提供されるように居宅介護支援を実施した。村内に多様なサービス事業所が増え、利用者の状態や希望に添える、質の高い事業所の紹介ができた。

- ◎ サービス利用の相談・アドバイス
- ◎ ケアプランの作成、見直し
- ◎ 介護保険施設への紹介
- ◎ 要介護認定などの手続きの代行
- ◎ 介護サービス提供事業所との連絡調整
- ◎ 定期的な自宅訪問による状況把握

② 介護予防日常生活支援事業・総合事業

読谷村役場福祉課地域包括支援センター・嘉手納町地域包括支援センターより業務委託を受け、担当の保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員等と連携を取りながら自立した生活を目指した支援を実施した。

- ◎ サービス利用の相談・アドバイス
- ◎ ケアプランの作成、見直し
- ◎ 要介護認定などの手続きの代行
- ◎ 介護サービス提供事業所との連絡調整

③ ケアマネジャーのサポート・育成、地域の介護課題の解決

- ・地域のケアマネジャーのスキルアップを図るための事例研究会に講師や運営として協力、勉強会などを企画した。
- ・認知症地域支援推進委員として、「子どもからお年寄りまで、皆で支え合い、共に生きるむらづくり」に協力した。
- ・その他、沖縄県介護支援専門員協会業務執行理事、中部地区在宅医療・介護連携推進事業推進委員を務め、地域医療・介護・福祉の発展に微力ながら尽力させていただいた。

【利用実績比較】

令和6年度	新規 (介護)	新規 (予防)	利用者数	居宅介護 支援員	令和7年度	新規 (介護)	新規 (予防)	利用者数	居宅介護 支援員
令和6年4月	0	0	39	1	令和7年4月	2	0	46	1
5月	2	0	39	1	5月	0	1	45	1
6月	0	0	37	1	6月	0	0	45	1
7月	2	0	38	1	7月	1	0	45	1

8月	2	2	42	1	8月	0	0	45	1
9月	3	1	43	1	9月	0	1	46	1
10月	1	0	43	1	10月	1	0	44	1
11月	1	0	43	1	11月	0	0	44	1
12月	3	0	45	1	12月	0	0	43	1
令和7年1月	2	0	46	1	令和8年1月	0	0	42	1
2月	0	0	48	1	2月	2	0	42	1
3月	0	0	48	1	3月	0	0	40	1
合計	16	3	511	1	合計	6	2	527	1

【介護度別】

(令和8年3月末)

	利用者数	事業対象	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5
令和6年度	511	0	12	35	112	137	80	97	38
令和7年度	527	0	47	29	147	106	90	96	12
増減 (B) - (A)	16	0	35	▲6	35	▲31	10	▲1	▲26

居宅介護支援事業（ケアマネジャー）研修・活動報告

NO	日付	研修内容
1	4月17日	(研修) 第1回 読谷村ケアマネ情報交換会
2	4月23日	(研修) 学術講演会「医療介護理解促進VR体験研修会」
3	6月11日	(研修) 中部地区12市町村 在宅医療・介護連携推進事業 「顔の見える交流会」
4	8月6日	(研修) ケアマネAI記録ビルダー活用セミナー
5	8月19日	(研修) 嘉手納町委託事業所等 介護支援専門員連絡会 「介護支援専門員のためのハラスメント対策について」
6	8月25日	(研修) 北谷町ヤングケアラー支援研修会

7	9月19日	(研修) 中部地区 12 市町村 在宅医療・介護連携推進事 「高齢者の想いに寄り添うナラティブアプローチその人らしさを支える」
8	11月27日	(研修)「介護の日イベント」
9	令和8年 1月27日	(研修) 嘉手納町委託事業所等 介護支援専門員連絡会 「介護支援専門員のための高齢者虐待防止の視点と対策・連携について」
10	2月11日	(研修) 認知症啓発講演会 「泉とオーバーのよんな〜笑って介護GO〜シーズン2」
11	3月5日	(研修) 中部地区 12 市町村 在宅医療・介護連携推進事業 急変時対応多職種研修会

(2) 通所介護事業・介護予防・日常生活支援総合事業の実施

通所介護事業及び介護予防・日常生活支援事業については、利用者の在宅生活の支援、社会的孤立感の解消、心身機能の維持向上、介護家族の身体的、精神的負担の軽減を、社会福祉の基本理念のもと可能な限り自立した日常生活を営むことができるよう支援することをサービス提供の目標としている。

令和7年度の利用延べ人数は合計で7,903人、対前年度比較で275人増となった。最も多い月が5月で717人、1日当たり27人、最も少ない月は2月で605人、1日当たり25人となった。平均要介護度は前年度2.0、今年度は要介護4の方が減ったために1.8となっている。

契約状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度 (A)	51	49	44	48	47	53	60	55	59	59	60	57	642
令和7年度 (B)	56	55	58	59	58	54	52	55	55	55	53	51	661
増減 (B) - (A)	5	6	14	11	11	1	△8	0	△4	△4	△7	△6	19

単位(人)

	新規	解約	解約内訳					
			入所	入院	他事業 所利用	自立	その他	死去
令和6年度 (A)	18	20	5	7	2	1	0	5
令和7年度 (B)	10	13	3	1	2	0	2	5
増減 (B) - (A)	△8	△7	△2	△6	0	△1	2	0

① 通所介護事業(デイサービス)

通所介護事業を実施した。

延べ利用者数7,233人、一日平均利用者数24人

看護師による健康チェック 食事や入浴の提供 レク、体操、運動機能向上訓練、誕生会、クリスマス会等

② 介護予防・日常生活支援総合事業

介護予防・日常生活支援総合事業を実施した。

延べ利用者数 670 人、一日平均利用者数 2 人

看護師による健康チェック 食事や入浴の提供 レク、体操 運動機能向上訓練、誕生会、クリスマス会等

職員体制

単位（人）

実人数	常勤		非常勤		常勤換算	備考
	専従	兼務	専従	兼務		
生活相談員	0	3	0	0	1.2	
看護職員	0	1	0	2	0.9	
介護職員	3	4	2	2	6.4	
機能訓練指導員	0	1	0	2	0.4	
事務員	0	1	0	0	0.7	
その他の従業者	1	0	4	0	3.0	

利用実績

単位（人）

令和7年度	延べ人数	日平均	利用者数	令和6年度	延べ人数	日平均	利用者数
4月	658	25	56	4月	619	24	51
5月	717	27	55	5月	604	22	49
6月	686	27	58	6月	523	21	44
7月	699	26	59	7月	595	22	48
8月	652	25	58	8月	635	24	47
9月	640	25	54	9月	654	26	53
10月	674	25	52	10月	695	26	60
11月	665	27	55	11月	696	27	55
12月	627	26	55	12月	657	27	59
1月	639	27	55	1月	641	27	59
2月	605	25	53	2月	627	26	60
3月	641	25	51	3月	682	26	57
合計	7,903	312	661	合計	7,628	298	642
平均	659	26	55	平均	635	25	54

介護度別

単位（人）

	運営日	利用延べ人数	事業対象	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5
令和 6 年度（A）	308	7,628	119	245	423	3,076	1,997	735	829	204
令和 7 年度（B）	307	7,903	74	256	340	3,191	2,269	977	525	271
増減 （B）－（A）	△1	275	△45	11	△83	115	272	242	△304	67

年間行事

単位（人）

日 付	行事	参加人数
令和 7 年 4 月	誕生日会	29 名
5 月	誕生日会	23 名
6 月	誕生日会	29 名
7 月	誕生日会	24 名
8 月	誕生日会 地域交流（小学生ダンス レアーズ訪問）	25 名 26 名
9 月	誕生日会 避難訓練・ミッドライフ	23 名 22 名
10 月	敬老会（利用者家族、子供の森保育園の 園児訪問） 誕生日会	50 名 26 名
11 月	誕生日会 作品展見学	55 名 55 名
12 月	クリスマス会（利用者家族、ボランティ ア訪問） 誕生日会	53 名 53 名
1 月	誕生日会 長寿会 初詣（センター内）	54 名 28 名 55 名
2 月	誕生日会 ミッドライフ（クリスマス）	50 名 51 名
3 月	誕生日会	27 名

※脳性まひ車いすユーザーのボランティア受入れ（8 月～）

（３）訪問介護事業・介護予防訪問介護事業の実施

要介護認定で要支援１・２と認定された方、日常生活で介助を必要とする要介護１～５と認定された方に対し、自立した日常生活及び生活の維持改善を図るため、利用者の立場に立ったサービスを提供した。

令和７年度の利用延べ人数は４,９５２人、対前年度比較で９５９人減となった。最も多い月が７月で４４５人、１日当たり１４.４人、最も少ない月は６月で３７９人、１日当たり１３.５人となった。

サービス内容の傾向としては、介護保険はデイサービスへの送出し、介護予防では日中の調理や買物支援の相談が多い。また、在宅生活が困難となり施設入所され、利用終了となる利用者も増加している。

① 訪問介護事業

家事生活援助、身体介助等のサービスを実施した。

延べ利用者数 ３,０６３人、１日平均利用者数 ８.６人

身体介護：食事、排泄、入浴、清拭、衣類着脱の介助、口腔ケア、整容など

生活援助：調理、洗濯や衣類の補修、清掃、整理整頓、買い物

通院等乗降介助：病院までの移動・乗り降りの介助

② 介護予防・日常生活支援総合事業

介護予防・日常生活支援総合事業サービスを実施した。

延べ利用者数 １,８８９人、１日平均利用者数 ６.１人

身体介護：食事、排泄、入浴、清拭、衣類着脱の介助

生活援助：調理、洗濯や衣類の補修、清掃、整理整頓、買い物

職員体制（障がい福祉サービス兼務）

単位（人）

実人数	常勤		非常勤		常勤換算
	専従	兼務	専従	兼務	
訪問介護員等	０	２	０	１ ７	６.９
うちサービス提供責任者	０	２	０	２	２
事務員	１	０	０	０	１
その他従業者	０	０	０	０	０

※沖縄県介護サービス情報報告システムより

利用実績

単位（人）

令和7年度	延べ人数	日平均	利用者数	令和6年度	延べ人数	日平均	利用者数
4月	417	14	48	4月	589	18	59
5月	423	14	50	5月	551	18	58
6月	379	14	49	6月	500	17	54
7月	445	14	54	7月	519	17	56
8月	417	14	53	8月	525	17	54
9月	424	15	54	9月	462	15	52
10月	438	15	54	10月	497	16	52
11月	392	13	51	11月	486	16	52
12月	437	15	50	12月	505	16	53
1月	383	12	47	1月	463	15	47
2月	381	14	47	2月	391	14	47
3月	416	13	46	3月	397	13	43
合計	4,952	168	603	合計	5,885	192	627
平均	413	14	50	平均	491	16	52

介護区分別

単位（人）

	身体介護	身体生活	生活援助	乗降介助	訪問型独自
令和6年度 (A)	2,419	860	474	12	2,120
令和7年度 (B)	1,878	567	549	69	1,889
増減 (B) - (A)	△541	△293	75	57	△231

介護度別

単位（人）

	利用延 べ人数	事業 対象	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5
令和6年度 (A)	5,885	197	441	1,482	511	1,265	579	584	826
令和7年度 (B)	4,952	249	595	1,045	675	1,257	235	401	495
増減 (B) - (A)	△933	52	154	△437	164	△8	△344	△183	△331

20. 障害者総合支援法による障害福祉サービスの運営

障がいのある利用者が、自立した日常生活や地域で安心して暮らしていけるよう居宅介護、重度訪問介護、同行援護の訪問介護サービスを実施した。

また、同居家族が高齢であったり、支援が必要な状態の世帯もあつたりと、1世帯で介護保険、障害福祉のサービスを利用する世帯も見られる

(1) 障害福祉サービス事業

① 居宅介護 実利用者数 21 名 延べ利用者数 3,187 人

食事、排泄、入浴、清拭介助、調理、洗濯、清掃、通院等介助

② 重度訪問 実利用者数 2 名 延べ利用者数 242 人

重度の肢体不自由で常時介護を必要とする利用者に、居宅において入浴、排泄、食事等の介護サービスや調理、洗濯、清掃等その他の支援を行なう。

③ 同行援護 実利用者数 6 名 延べ利用者数 223 人

移動に著しい困難を有する利用者に同行し、移動に必要な情報を提供するとともに、移動の援護等、外出に必要な援助を行う。

利用実績

単位 (人)

令和7年度	延べ人数	日平均	利用者数	令和6年度	延べ人数	日平均	利用者数
4月	222	7	24	4月	212	7	25
5月	222	7	24	5月	228	7	22
6月	259	9	23	6月	183	6	23
7月	250	8	23	7月	236	8	23
8月	231	8	22	8月	222	7	23
9月	241	8	23	9月	222	7	27
10月	264	9	24	10月	243	8	28
11月	233	8	28	11月	225	8	27
12月	292	10	24	12月	256	8	25
1月	234	8	27	1月	213	7	28
2月	220	9	23	2月	183	7	21
3月	254	8	26	3月	220	7	26
合計	2922	99	291	合計	2,643	87	298
平均	244	8	24	平均	220	7	25

区分別利用回数

	居宅介護	重度訪問介護	同行援護	合計
令和 6 年度（A）	2,220	199	224	2,643
令和 7 年度（B）	2,457	242	223	2,922
増減（B）－（A）	237	43	△1	279

（２）地域生活支援事業（村受託事業）

① 読谷村移動支援事業

屋外での移動に困難のある利用者に、外出支援を行うことにより、地域での自立生活及び社会参加を促すことを目的として実施した。利用延べ回数は減少したが、他のサービスと併用する利用者も多く、利用者数は増加した。

利用状況

	新規	解約	延べ回数	利用者数合計	利用者数月平均
令和 6 年度（A）	2	2	283	88	7
令和 7 年度（B）	4	5	265	90	8
増減（B）－（A）	2	3	△18	2	1

（３）職員研修・講習会の実施

研修・講習会実績

単位（人）

NO	日 付	研修内容	参加人数
1	4 月 21 日	マナーと接遇の研修、ケース検討会	10
2	5 月 20 日	インフルエンザ、ノロウイルス感染症対策、ケース検討会	7
3	6 月 20 日	ボディメカニックス、法令遵守、ケース検討会	9
4	7 月 22 日	ハラスメント防止、対策に関する研修、ケース検討会	7
5	8 月 20 日	社会保険に関する説明会、プライバシー保護に関する研修	11
6	10 月 10 日	認知症研修	9
7	10 月 20 日	虐待防止と身体拘束について、BCP 災害時について、ケース検討会	11
8	11 月 28 日	合同感染症対策研修	9
9	12 月 2 日	苦情解決セミナー（外部研修）サービス提供責任者	1
10	12 月 22 日	ICT 導入の事前説明会、報告・ケース検討会	10
11	1 月 20 日	ICT 導入（すぐろく）に関する説明会	13
12	2 月 20 日	事故対応と再発防止に関する研修	11
13	3 月 17 日	AED を使用した応急救命講習	10

2 1. 読谷村介護予防・日常生活支援総合事業（村受託事業）

閉じこもりがちな高齢者等に対し、集いの場を提供し、レクや野外活動、地域交流等を行うことで、社会的孤立の解消及び自立した日常生活を営み、さらに地域とのつながりを築くことを目的に予防サービス（通所型サービスA）事業を実施した。

（1）わんからデイサービス

令和7年度の利用延べ人数は、307人、対前年度比較で47人減となった。

- ◎対象者 要支援認定者、事業対象者
- ◎日 時 毎週火曜日 午前10時～午後3時
- ◎場 所 よみたん生き生き健康センター2階
- ◎内 容 高齢者の閉じこもり予防や自立支援に資する通所事業
 - ・看護師による健康チェック ・食事の提供 ・レク、交流 ・運動 ・送迎
- サービス実施日数52日 ■利用登録者数91人
- 延べ利用者数307人（男性104人、女性203人）※令和6年度延べ利用者数354人
- 1日平均利用者数6人（前年度7人）

利用実績

単位（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度 (A)	28	41	41	44	28	25	39	25	20	14	26	23	354
令和7年度 (B)	38	29	33	34	24	28	22	24	13	17	21	24	307
増減 (B)-(A)	10	△12	△8	△10	△4	3	△17	△1	△7	3	△5	1	△47

2 2. 読谷村生き生き健康センター指定管理

■施設の名称及び指定期間

- ◎施設の名称 読谷村生き生き健康センター（読谷村字都屋167番地2）
- ◎指定期間 令和6年4月1日から令和11年3月31日まで（5年間）

■施設での事業

【1階】

- ◎通所介護事業所の運営（介護保険事業、通所型サービスA事業）
- ◎訪問介護事業所の運営（介護保険事業、障害福祉サービス事業）
- ◎居宅介護支援事業所の運営（介護保険事業）

【2階】

- ①施設貸出事業・・・・・・乳児健診、一般健診
一般予防事業等（がんじゅう広場、生き生きクラブ）
- ②受託事業・・・・・・通所型サービスA「わんからデイサービス事業」（週1回）